

# 成人看護援助論

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：健康障害の病態と治療を理解し、健康障害を抱える成人期にある対象を身体的・心理的・社会的な側面から分析し、対象の全体像を把握する方法を理解する。また、健康障害の各過程の特徴に応じた看護援助方法について学修し、援助計画の立案までにいたる過程を理解する。

■**到達目標**：①疾病や治療の特徴を理解し、成人期の対象に起こる多様な健康障害について特徴的な看護援助方法について説明できる。  
②ゴードンのアセスメントフレームを用いて健康障害をもつ紙上事例について成人期の特徴を考慮しながら多面的にアセスメントし、その援助方法について看護計画として立案できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎神島 滋子・貝谷 敏子・菅原 美樹・藤井 瑞恵・工藤 京子・小坂 美智代・柏倉 大作

■**授業計画・内容**：

第1回	コースガイド／ゴードンのアセスメントフレームについて	第8回	血液・造血機能障害のある人への援助
第2回	脳神経・感覚機能障害のある人への援助	第9回	周手術期における看護援助（術前・術中）
第3回	栄養代謝機能障害のある人への援助	第10回	周手術期における看護援助（術後）
第4回	循環機能障害のある人への援助	第11回	講義：問題の明確化とケアプラン作成について
第5回	演習：個人（アセスメント）	第12回	演習：グループで統合し、ケアプランを作成する
第6回	講義：アセスメントについての質問・助言	第13回	周手術期にある人への援助①（開胸・開心術）
第7回	呼吸機能障害のある人への援助	第14回	周手術期にある人への援助②（開腹術）
		第15回	発表・まとめ

■**教科書**：雄西智恵美・秋元典子編集：周手術期看護論 第3版、ヌーヴェルヒロカワ、2014  
鈴木久美・野澤明子・森一恵：看護学テキストシリーズNiCE 慢性期看護 改訂版2版、南江堂、2015

■**参考文献**：

- 〈健康障害のある人への看護援助について〉
- ・池松裕子・山勢善江編：急性期看護論、ヌーヴェルヒロカワ
  - ・鈴木志津枝・藤田佐和編：成人看護学 慢性期看護論、ヌーヴェルヒロカワ
  - ・ナーシンググラフィカシリーズ【健康の回復と看護】、メディカ出版
  - ②健康の回復と看護 呼吸・循環機能障害、②栄養代謝機能障害、③造血機能障害／免疫機能障害、④脳・神経機能障害／感覚機能障害、⑤運動機能障害、⑥内部環境調節機能障害／性・生殖機能障害、⑦疾病と治療
  - ・ナーシンググラフィカシリーズ【成人看護学】、メディカ出版
  - ②健康危機状況／セルフケアの再獲得、③セルフマネジメント
  - ・黒田裕子編：成人看護学、医学書院
  - ・野川道子編：看護実践に活かす中範囲理論、メジカルフレンド社
- 〈看護過程について〉
- ・江川隆子編著：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（第5版）、ヌーヴェルヒロカワ、2016
  - ・任和子編著：実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド、照林社、2015
  - ・マージョリー・ゴードン著：アセスメント覚え書き ゴードン機能的健康パターンと看護診断、医学書院、2009
  - ・矢田昭子・秦美恵子編：基準看護計画第3版、照林社、2016
  - ・貝瀬友子・真野響子編：看護学生のための疾患別看護過程vol.1、val.2、メジカルフレンド社、2011
  - ・菅原美樹・瀬戸奈津子監修：基礎と臨床がつながる疾患別看護過程、学研、2015

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎	◎	各授業の理解度	60
演習の個人レポート	◎	◎	看護過程の記述内容 レポート提出状況	30
演習のグループレポート	○	◎	グループとしての課題達成度	10
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：・これまで学修した関連科目：形態機能学Ⅰ・Ⅱ、病理病態学、疾病治療学概論、疾病治療学A・B、臨床栄養学、看護過程論、症状マネージメント論、成人看護学概論  
・今後学修する関連科目：成人看護技術論、がん看護学、リハビリテーション看護学、透析ケア、重症集中ケア、救急看護学、パリアティブケア

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護過程の展開能力が求められる成人看護学臨地実習Ⅰの基礎となる重要な科目です。既習した専門科目と関連させながら展開しますので、積極的な授業参加を期待しています。